

『稲沢市祖父江地区公立保育園再配置基本方針』について

令和 7 年 2 月 1 3 日
子 ども 健 康 部 保 育 課

1 背景と趣旨

- (1) 背景
- ア 老朽化の進行
牧川保育園を除いた 5 園は、築後 50 年以上を経過した木造建築物であること。
- イ 児童数の減少
令和 5 年 3 月末 長岡保育園休園、令和 6 年 3 月末 山崎保育園休園
- (2) 趣旨
人口減少や少子化、女性の社会進出の増大といった社会環境の変化や、園舎の老朽化に対応するため、祖父江地区の公立保育園再配置の基本的な考え方、方針について定める。

2 祖父江地区の公立保育園の現状

○ 就学前児童数と入園児童数の推計

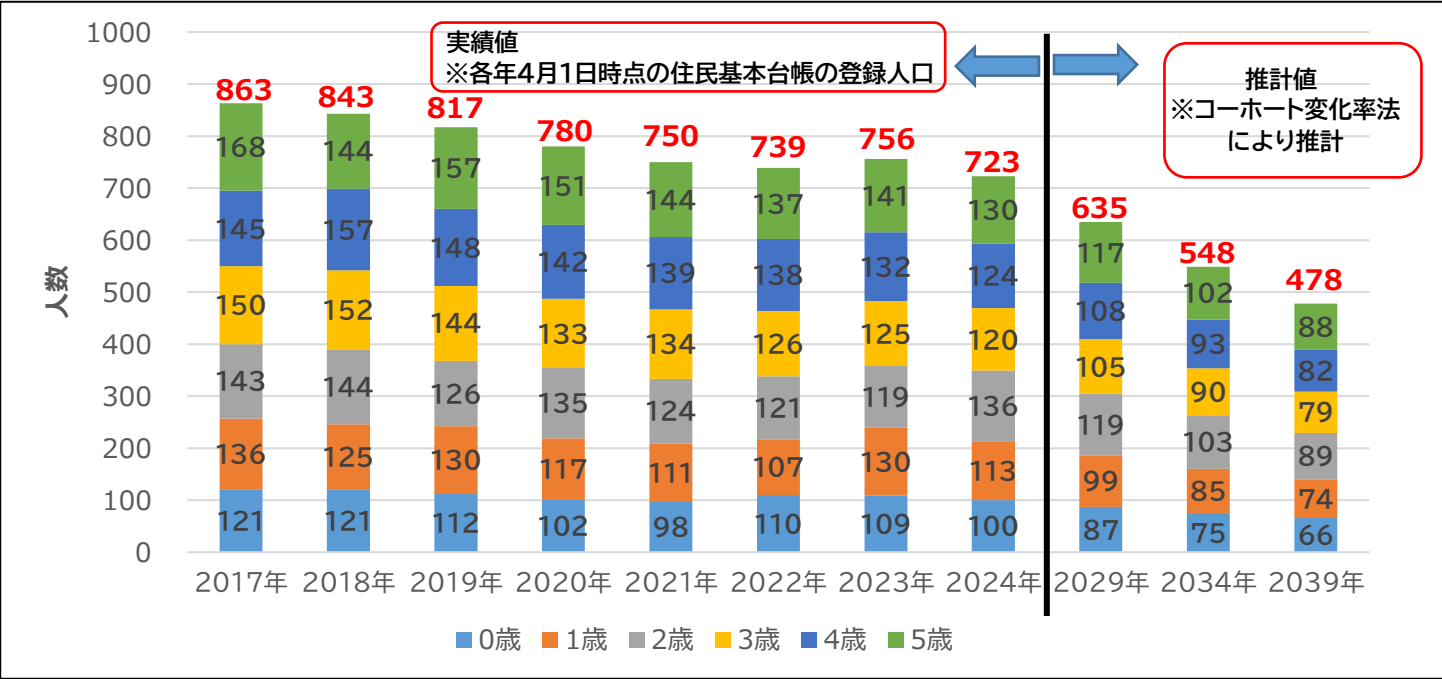


図 1 祖父江地区の就学前児童数の推移と将来推計

表 1 祖父江地区保育園入園児童の将来推計

単位:人

	2024 (令和 6) 年度			2029 (令和 11) 年度			2034 (令和 16) 年度			2039 (令和 21) 年度		
	学齢別計	乳児・幼児別計	入園児童数	学齢別計	乳児・幼児別計	入園児童数※1	学齢別計	乳児・幼児別計	入園児童数※1	学齢別計	乳児・幼児別計	入園児童数※1
0 歳	100	349	133	87	305	122	75	263	105	66	229	91
1 歳	113		(38.1%)	99			85			74		
2 歳	136			119			103			89		
3 歳	120	374	238	105	330	231	90	285	199	79	249	174
4 歳	124		(63.6%)	108			93			82		
5 歳	130			117			102			88		
計	723	723	371	635	635	353	548	548	304	478	478	265
祖父江地区外からの入園児童数※2			51			48			41			36
			(12.1%)									
合計			422			401			345			301

※ 1 2024 (令和 6) 年度の実績から入園率を乳児 (0 ~ 2 歳児) 4 0 %、幼児 (3 ~ 5 歳児) 7 0 %と推定
※ 2 祖父江地区外からの入園児童を入園児童数全体の 1 2 %程度と推定

3 アンケート

対象者	祖父江地区の公立保育園の通園児の保護者	427 人
	稲沢市の公立保育園に勤務する保育士	242 人
アンケート方法	Web フォーム	
アンケート期間	令和 6 (2024) 年 5 月 15 日 (水) から 令和 6 (2024) 年 6 月 14 日 (金) まで	30 日間
回答者数	祖父江地区の公立保育園の通園児の保護者	208 人 (48.7%)
	稲沢市の公立保育園に勤務する保育士	175 人 (72.3%)

(2) 新保育園建設時における重視すべき機能 (結果)

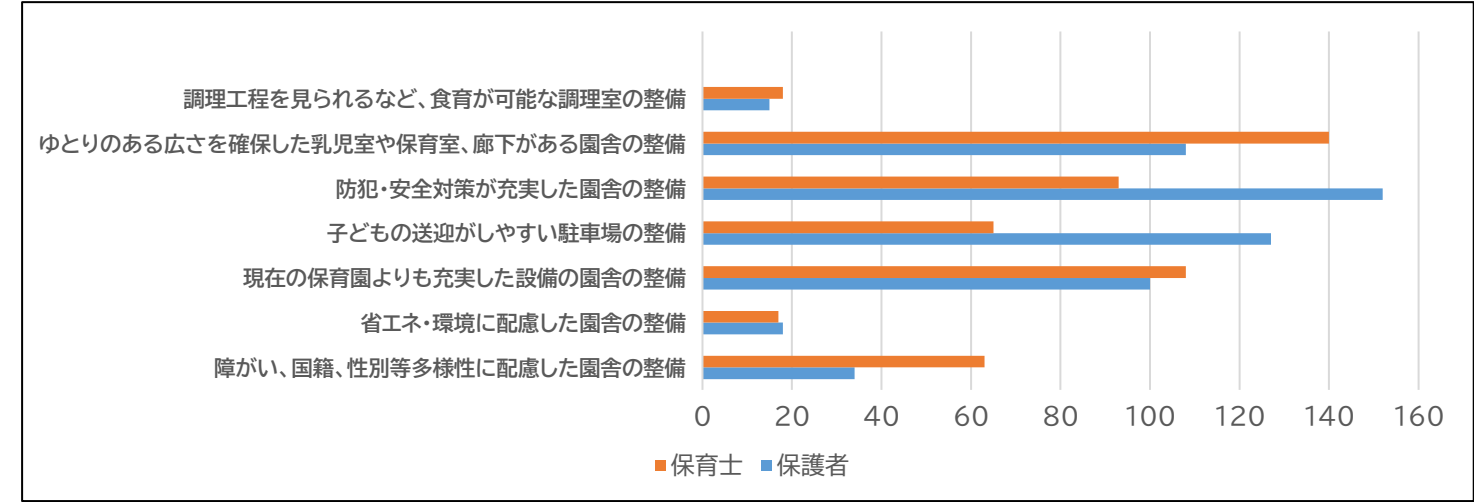


図 2 保育園舎等の重視すべき機能

4 ワークショップ

(1) 概要		
開催日	令和 6 (2024) 年 6 月 29 日 (土)	令和 6 (2024) 年 7 月 5 日 (金)
開催時間	午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで	午後 4 時から 6 時まで
開催場所	祖父江生涯学習センター 第 2 研修室	
対象者	祖父江地区の公立保育園に通園する児童の保護者及び 稲沢市内の公立保育園に勤務する保育士を対象。	
実施方法	5 ~ 6 人ごとのグループに分かれたグループワーク形式	
参加者数	11 人 (保護者 5 人、保育士 6 人)	15 人 (保護者 9 人、保育士 6 人)

- (2) 結果まとめ
保護者及び保育士からの提案・アイデアを総括的に見ると、『快適なくらし、快適な空間の確保』を望んでいることが推考できた。

5 祖父江地区の公立保育園の再配置について

- (1) 再配置の基本的な方針
- ① 集団保育の適正規模確保 (子どもたちの協同性の育ち、子ども同士での学び合い)
 - ② 新しい施設・設備・園庭により、本市の主体的な保育の展開を補強。
 - ③ 特別保育全メニューの実施。

(2) 再配置検討の前提条件

- ① 就学前児童数の減少に伴い、適正規模での施設数とする。
- ② 祖父江地区全体で考える。
- ③ 原則として、既存ストックを活用する。
- ④ 跡地の活用可能性も考慮する。

(3) 祖父江地区の公立保育園等の再配置案について

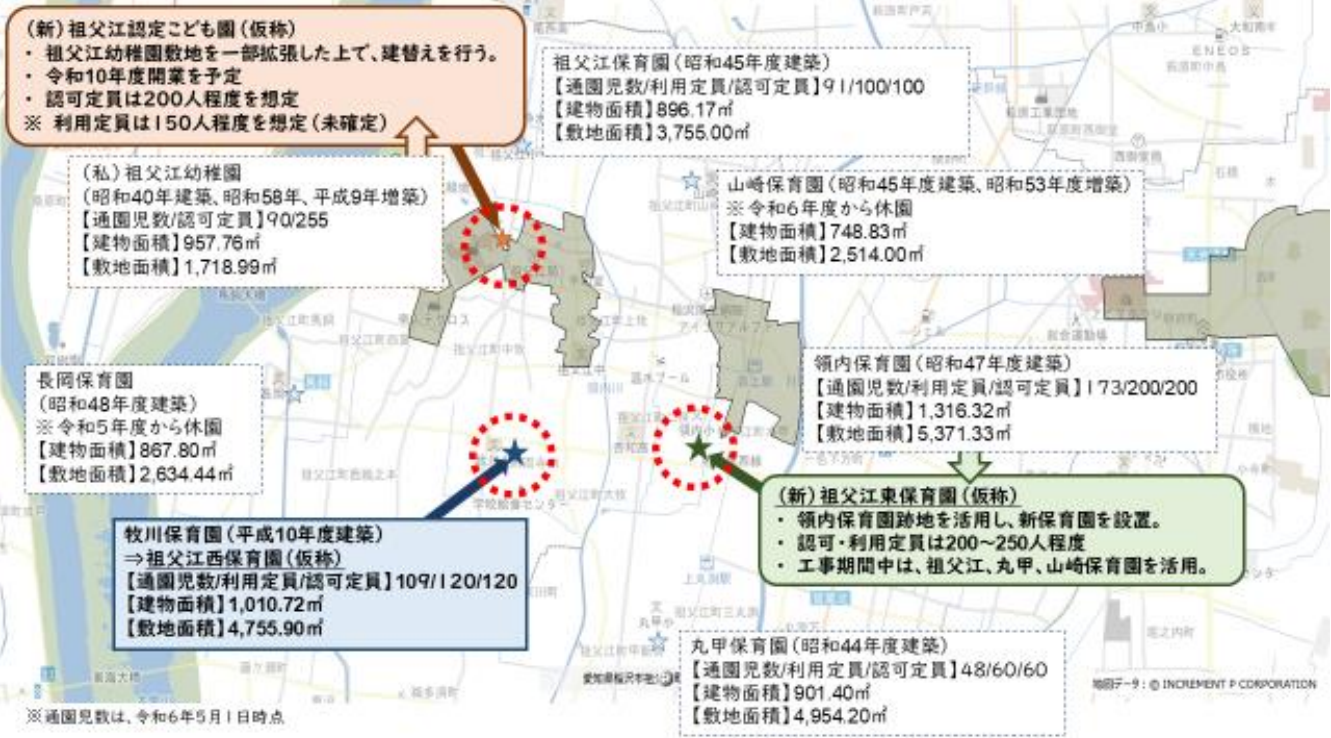


図3 祖父江地区の公立保育園の再配置・建替えのイメージ案

6 新保育園整備のコンセプト

① 稲沢市の特徴である「子ども主体の丁寧な保育」を施設面で補完できること

発達に応じた子どもの“主体性”を大切にした生活や遊びの保育環境を提供できる園舎・園庭を目指す。

② 利用児童の『快適なくらし、快適な空間』を確保すること※ アンケート、ワークショップより

以下の項目を満たす園舎を目指す。

- ・ 保育室などの空間が安全で庇護的な園舎であること。
- ・ 部屋の広さ、空間の大きさに配慮した園舎であること。
- ・ 室温だけでなく、光や音、香りなど「暖かさ、居心地良さ」を確保した園舎であること。
- ・ 保育士など保育園に関わる者が愛着を持てる園舎であること

③ 人種、性別、宗教、障がいなど様々な個性を持つ園児を受け入れることができること

ユニバーサルデザインを取り入れるなど、多様な児童を受け入れ、保育士の負担感を少しでも軽減できるよう施設面で援助する園舎を目指す。

④ 社会環境が短期間で変化するため、その変化に応じて保育士が対応でき、また、質の高い保育サービスを提供できること

施設を運営・維持している間に社会環境が短期間で変化することが想定されるため、その変化に応じて保育士が対応しながら、質の高い保育サービスが提供できるよう汎用性の高い園舎を目指す。

⑤ 災害に強く、被災しても素早く保育サービスを提供できること

耐震性など災害そのものに強い園舎であるとともに、水、食料等が備蓄できる空間があるなど、被災しても素早く保育サービスを提供できる園舎を目指す。

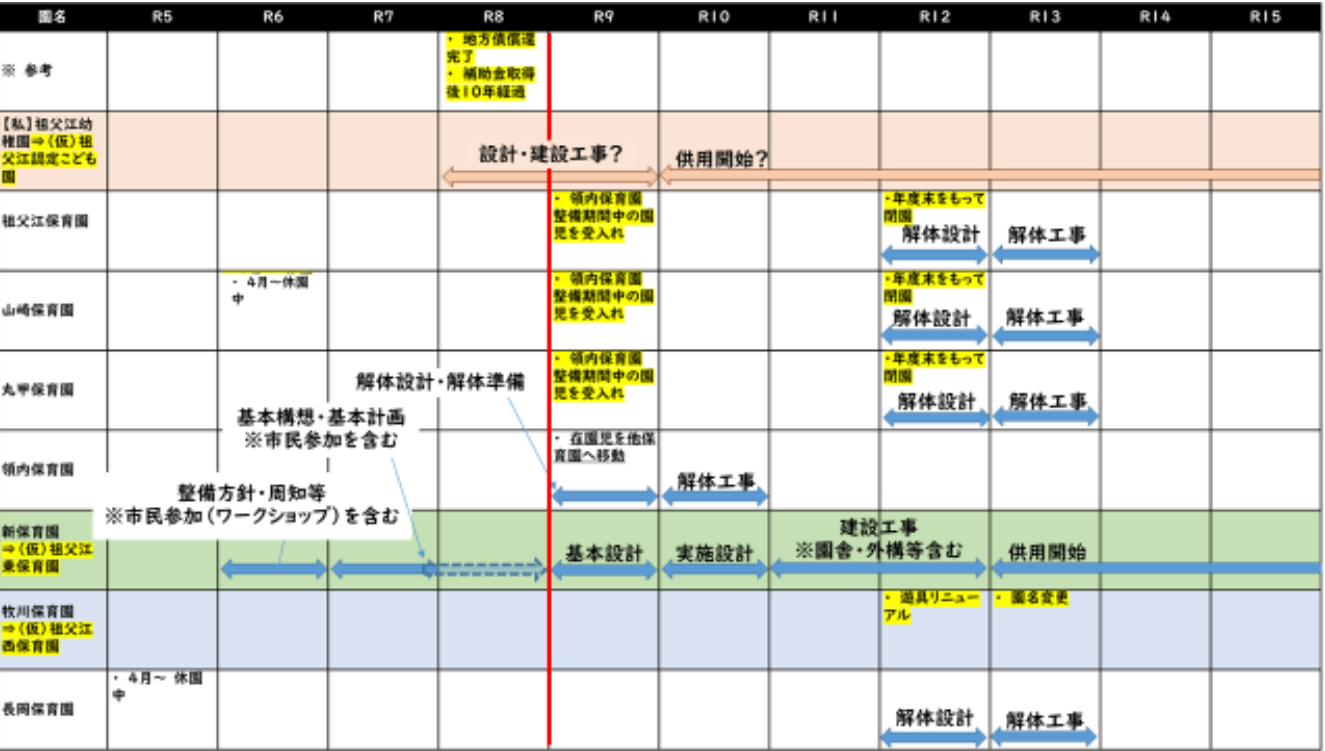


図4 祖父江地区の公立保育園の再配置・建替えのスケジュール案